

第5学年 家庭科学習指導案

場 所	5年2組教室
児 童	5年2組 34名
指導者	菅原 千佳

1 題材名 楽しい小物作りにチャレンジしよう

2 題材のねらい

本題材は、学習指導要領の指導内容「C 快適な衣服と住まい」の項目、「(3) 生活に役立つ物の製作」を受けて設定したものである。

本題材は、形などを工夫し布を用いて物を製作することを通して、布や生活に役立つ物の製作に関心を持ち、製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることにより、楽しんで生活の中で裁縫の技能を活用しようとする姿を目指す。

3 題材の指導構想

(1) 児童について

児童は、家庭科の学習に興味や関心が高い。児童はこれまでに、「はじめてみよう クッキング」の学習を通して、基本的な器具や用具の取扱い方の学習や食品をゆでる体験をすることで、調理に興味をもち始め、家庭でも実践しようとする意欲が高まってきている。

学習の導入段階での調査では、裁縫体験をしている児童の割合は20%に満たなかった。児童のほとんどが裁縫体験がなく、家庭においても、家族が裁縫をしている様子を見たことがない児童もいる。そこで、生活経験や実態、個人差等を配慮しながら、製作計画や具体的手順を確認し、標本の提示などの手立てを工夫し学習を展開していくことで、裁縫についての関心を高めながら、製作活動に進んで取り組み、基本的技能を身に付けられるような学習にしていくことが必要である。

(2) 題材について

本題材は、主に「手ぬい」「楽しい小物作り」の2つの内容を取り扱っていく学習である。

「手ぬい」の学習では、布を縫う下準備として、針に糸を通したり、糸が抜けないように玉結びをしたりすること、縫い目がほどけないように縫い終わりに玉どめをすることなどの基本的技能の習得を目指す。ここでは、基本的な用具の取扱い方についても学習し、安全に気を付けながら学習する態度を身に付けるようにしていく。また、ボタン付けや基本的な縫い方の特徴など、裁縫の基本的な知識や技能を学ぶことによって、家庭でも実践できるようにしていく。

「楽しい小物作り」の学習では、既習の手縫いの技能を活用して、自分の目的に合った楽しい小物作りを計画していくことで、自分が製作する物への関心をより高めながら、製作に意欲をもって取り組んだり、基本的な裁縫の技能を身に付けたりしていけるようにする。

本題材は、初めてとなる裁縫の体験を通して、手縫いで製作する楽しさや喜びを十分に味わわせることができると共に、習得した技能を自分の生活の中で活用していくことができ、楽しみながら「できる自分」へと成長していくことができる題材である。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、裁縫の入門期であることを踏まえ、児童の負担感を和らげ、知識や技能を身に付ける喜びを実践的・体験的活動を通して実感できるようにすることで、家庭生活で実践しようとする態度につなげていきたい。

<自己と「事象」とのつながり>

題材との出会いの場面において、やってみいたいという思いや、どのようになっているのかなどの知的欲求を刺激するように、実際の小物や写真などを提示し、自分の生活を豊かにする楽しい小物について具体的なイメージを完成予想図として描き表していく。そうすることで、「事象」（小物作りに必要な基本的技能）に主体的に関わりながら、技能習得の必要感をもって学習に取り組んでいけるようにする。縫い方の学習では、正しい縫い方やきれいな縫い方を理解することができるようにするために、標本や分解標本、図などを意図的に提示していく。また、各時間の導入において試し縫いを行い、標本と試し縫いをしたものとを比較する中で課題を見出すことで、よりきれいな縫い方を目指したいという思いをもつことができるようにする。

<自己と「友達」とのつながり>

実践的・体験的な活動を各時間に位置付け、「友達」と共通の活動を通してわかったことや感じたことなどを交流し合うことで、個の学びをより深め、小物作りに必要な技能について理解できるようにする。そのために、学び合いの場面では、標本と自分の縫い方などを比較したり、友達の考えと関連付けて考えたりすることで、小物作りに必要な基本的技能のポイントについて理解を深め、それを練習のポイントとして、正しくきれいな縫い方で練習できるようにしていく。

また、練習段階では、ペアやグループで見合う活動を通して互いの技能習得の状況を確認合ったり、教え合ったりすることができるようにする。

さらに、作品発表会では、友達の作品のよさを見付ける場面を設定することで、互いにできるようになった喜びを味わうことができるようにしていく。

<自己と「未来」とのつながり>

学びの記録を毎時間積み重ねていく。裁縫の技能について個人差が大きく出ることが予想されることから、縫い方のポイントや学習を通してわかったこと、感想等について記録していくことで、児童が縫い方を選択したり、小物作りに取り組んだりする際にテキストとして活用できるようにしていく。また、テキストを活用しながら繰り返し練習することで、基本的技能を確実に身に付け、達成感を味わえるようにする。

本題材の最終段階では、本題材全体の振り返りの活動を設定する。友達と学び合って得た知識や繰り返し練習することで身に付けた技能、作品への思いなどを再認識し、「できる自分」へ成長したことに気づき、家庭での実践への意欲をもつことができるようにしていく。

4 題材の指導計画

(1) 目標

- ・ 身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心を持ち、いろいろな縫い方で製作する活動に進んで取り組もうとする。【家庭生活への関心・意欲・態度】
- ・ 目的に応じた縫い方について考えたり、工夫したりする。【生活を創意工夫する能力】
- ・ 目的に応じてなみ縫いや返し縫い、かがり縫いなどで製作することができる。【生活の技能】
- ・ 製作に必要な用具の安全な取扱い、基本的な手縫いの仕方について理解する。【家庭生活についての知識・理解】

(2) 評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する 能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもってしている。 目的に応じた縫い方で製作する活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた縫い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じてなみ縫いや返し縫い、かがり縫いなどで製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作に必要な用具の安全な取扱いについて理解している。 玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解している。

(3) 指導計画 (全9時間 本時6/9)

時	学習活動及び学習内容	評価
1	◎楽しい小物作りとの出会い <ul style="list-style-type: none"> 楽しい小物の写真や実物を見て、小物作りのイメージを膨らませる。 学習計画を確認する。 作りたい小物のイメージを図に表す。 裁縫用具の名前や用途、安全な取扱いについて知る。 	◇ 作りたい小物について考え、イメージ図を描こうとしている。 【関】 C(3)ア
2	◎玉結び・玉どめ <ul style="list-style-type: none"> 玉結びや玉どめの目的について考える。 玉結びや玉どめの仕方を知る。 練習する。 	◇ 玉結びや玉どめの役割や仕方について理解している。 【知】 C(3)イ
3	◎ボタンの付け方 <ul style="list-style-type: none"> ボタンの特徴について考える。 ボタンの付け方を知る。 練習する。 	◇ ボタンの特徴や付け方を理解している。 【知】 C(3)イ
4	◎なみ縫い <ul style="list-style-type: none"> なみ縫いのポイントを学び合う。 練習する。 	◇ なみ縫いのポイントを理解している。 【知】 C(3)イ
5	◎本返し縫い・半返し縫い <ul style="list-style-type: none"> 本返し縫いと半返し縫いのポイントを学び合う。 練習する。 	◇ 本返し縫いと半返し縫いのポイントを理解し、本返し縫いと半返し縫いをすることができる。 【知】・【技】 C(3)イ
6 (本時)	◎かがり縫い <ul style="list-style-type: none"> かがり縫いのポイントを学び合う。 練習する。 	◇ かがり縫いのポイントを理解し、かがり縫いをすることができる。 【知】・【技】 C(3)イ
7 ・ 8	◎楽しい小物作り <ul style="list-style-type: none"> 目的に合った縫い方をイメージ図に描き込む。 製作の手順を確認する。 選択した縫い方で小物作りをする。 	◇ 基本の縫い方ができる。 【技】 C(3)イ ◇ 裁縫用具の安全な取扱いについて理解している。 【技】 C(3)ウ ◇ 目的に合わせて縫い方を選択している。 【創】 C(3)イ

9	◎作品発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想カードに、感想を書く。 ・ グループ発表会をする。 ・ 自分の製作について振り返る。 	◇ 作成したものを見合い、友達の作品のよさを見付けようとしている。 <div style="text-align: right;">【関】C(3)ア</div>
---	---	---

5 本時の指導計画

(1) 目標

かがり縫いの縫い方について、基本的なポイントを理解し、均等な間隔や適度な糸の引き方で縫うことができる。

【家庭生活についての知識・理解】【生活の技能】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ かがり縫いの基本的なポイントを理解している。 <div style="text-align: right;">【家庭生活についての知識・理解】</div> ・ 均等な間隔や適度な糸の引き方で縫うことができる。 <div style="text-align: right;">【生活の技能】</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かがり縫いのポイントを見付ける場面では、既習の縫い方の共通点に注目させていく。 ・ 布の持ち方や針の動かし方を確認し、ポイントを確かめながら一緒に練習する。

(3) 展開

段階	学習内容及び学習活動	留意点・手立て<◇評価>	備考
見 つ め る 10 分	1 本時の学習を確認し、試しのかがり縫いをする。 2 標本と試しのかがり縫いを比較し、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふちがでこぼこしている。 ・ 間隔がぐちゃぐちゃだ。 ・ 糸がよれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かがり縫いの図を提示し、やり方を説明する。 ・ 標本と試しのかがり縫いを比較して気付いたことをもとに、学習課題を設定していく。 	小物入れ (かがり縫い) かがり縫い(図) 糸 針 練習布 糸切りばさみ かがり縫い標本
	<p style="text-align: center;"><「事象」とのつながり></p> <p>① 実物の小物入れを提示し、かがり縫いに挑戦する意欲を高める。</p> <p>② 標本を提示し、標本と自分のかがり縫いを比較して見るように促す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>試しのかがり縫いのでき具合を知り、きれいなかがり縫いを目指したいという思いを高めることができる。</p>		
	3 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> きれいなかがりぬいに、チャレンジしよう。 </div>		
	4 きれいなかがり縫いにするためにどのようにしたらよいか考える。 (1) かがり縫いのポイントについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ なみ縫いや本返し縫いのポイントを振り返り、応用できるところはなにか考えるよう促す。 	学習プリント かがり縫い標本

<p>高める</p>	<p><「友達」とのつながり> 試しのかがり縫いと標本を比較して見るように促し、きれいなかがり縫いにするためのポイントについて話し合う場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>試しのかがり縫いと標本を比較して見ることで、均等な間隔で縫うことや適度な糸の引き方で縫うことなどのポイントをとらえることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ間隔で縫う。 ・ 糸を引っぱり過ぎない。 ・ 糸がよれないように確かめる。 <p>(2) 試しのかがり縫いをレベルアップさせるポイントを確認する。</p> <p>5 かがり縫いの練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合ったことをもとに、一斉で交流する場を設定し、かがり縫いのポイントについて理解を深めることができるようにする。 ・ 話し合いの中で、かがり縫いのよさにつながる発言があれば取り上げる。 ・ プリントの書き込みの中で、自分の縫い方をよりきれいにするためのポイントを青色で囲むよう促す。 	<p>針糸練習布</p>
<p>28分</p>	<p><「友達」とのつながり> 各自で選んだポイントを意識して縫うことができているか、互いに確かめ合う活動を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>かがり縫いのポイントを意識して練習し、試しのかがり縫いよりきれいなかがり縫いをすることができるようにするとともに、友達の客観的な評価をもとに、かがり縫いに対する自己評価ができるようにする。</p> <p>(1) 個人練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かがり縫い 3分 <p>(2) かがり縫いのでき具合を、ペアで見合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で確認したかがり縫いのポイントの一つずつ確認し、できたことに花丸をつけることで、「できるようになった自分」を自覚できるようにする。 	<p>学習プリント</p>
<p>まとめ 7分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p><「未来」とのつながり> 「①どんなことが分かり、できるようになったか。」「②どのようにしたらできるようになったのか。」「③次は、どんなことをしてみたいか。」を観点として、振り返りをノートに書くよう促す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>かがり縫いの学び合いや練習を通して分かったことや、できるようになったことを自覚できるようにするとともに、それらをどのように活用したいか見通しをもつことができるようにする。</p>		<p>学習プリント</p>

	<p>7 次時の学習への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ かがり縫いの基本的なポイントを理解している。 【家庭生活についての知識・理解】 ◇ 均等な間隔や適度な糸の引き方で縫うことができる。 【生活の技能】 (観察・発言・学習プリントの記述) <p>・ 次時は、縫い方の学習を生かして、小物作りの具体的な計画を立てることを確認し、次時への意欲を喚起する。</p>	
--	-------------------------	---	--